

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場	病害虫防除室
Tel	0776-54-9315	
FAX	0776-54-6403	
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp	

平成27年農作物病害虫発生予察予報第3号

5月の気象概況

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

〔水稻関係〕

病害虫名 苗いもち

- 1 予報内容
発生時期：5月上旬
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年やや多
- 2 防除対策および防除上の注意点
 - (1) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようにする。
 - (2) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾がらは伝染源となるので、除去する。
 - (3) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田での葉いもちを抑制する効果がある。
 - (4) 5月中旬移植コシヒカリ栽培では、必ず育苗箱施薬を行う。

病害虫名 イネミズゾウムシ

- 1 予報内容
発生時期：成虫の本田侵入初期は5月4半旬頃、侵入最盛期は5月6半旬頃
被害程度：少発、局中発（山間・山沿い）
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
 - (1) 毎年発生が見られる地域や山間、山沿いに近い水田では被害が出やすいので育苗箱施薬を行う。
 - (2) 直播栽培で種子コーティング時に殺虫剤を混入していない場合、被害が大きくなる恐れがあるので注意する。
 - (3) 浅水管理を行って幼虫の密度を抑制する。

病害虫名 イネゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は5月4半旬頃

被害程度：少発、局中発（山間、山沿い）

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

（1）畦畔および圃場周辺の清掃に努める。

（2）窒素過多にならないように施肥基準を守る。

（3）代掻き時、幼虫や成虫が多数認められる場合は薬剤防除を行う。また、イネ活着後、水際付近の茎に成虫が認められる場合には薬剤防除を行う。

（4）直播栽培の深水管理による水面に垂れた葉や流れ葉は、イネヒメハモグリバエの産卵場所として好適となるので、浅水管理を行う。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

1 予報内容

対象作型：直播栽培、移植栽培（5月下旬以降）

発生時期：加害初期は5月5半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

（1）直播栽培は被害を受けやすいので注意する。

（2）深水を避け、産卵場所となる浮き葉、たれ葉を減らす。

（3）発生が多い場合は幼虫発生初期に薬剤を散布する。

（4）適期コシヒカリ栽培では育苗箱施薬を行う。

[大麦関係]

病害虫名 赤かび病

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

（1）赤かび病に最も感染しやすい時期は開花盛期である。そのため、穂揃期（出穂後5日頃）とその7～10日後頃の2回薬剤防除を行う。

（2）出穂は圃場によって異なるので、必ず圃場の出穂を確認して、適期に防除する。

（3）赤かび病が発生すると、赤かび粒を除去することが難しいので、圃場審査と別仕分けを行う。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ネギ	さび病		少発	前年：並み 前年：多	1) 肥料不足や窒素過多にならないようにする。
アブラナ 科野菜	モンシロ チョウ	加害盛期： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	コナガ	加害盛期： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：多 前年：多	1) 加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
ウリ類	ウリハムシ (越冬成虫)	初発期： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
全 般	アブラム シ類	初発期： 5月上旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 定植期から発生初期にかけて防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ネキリム シ類(カブ ラヤガ)	加害盛期： 5月下旬	中発 (局多発)	平年：並み 前年：少	1) 被害の早期発見に努める。 2) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病	初発： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや少 前年：やや少	1) 脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2) 同一薬剤の連用は避ける。 3) 落葉がある場合は圃場外で処理する。
	黒斑病	初発： 5月中旬	少発	平年：並み 前年：多	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	赤星病	初発： 5月上旬	少発	平年：並み 前年：多	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。
ウメ	かいよう病	果実初発 5月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 常発圃場では生育期に抗生物質等で予防防除する。 2) 降雹があった場合、その2日後に抗生物質等で防除すると果実での発生が抑えられる。 3) 防風対策を必ず実施する。
	ウメシロカイガラムシ (第1世代幼虫)	幼虫発生 初期： 5月2半旬	少発 (局多発)	平年：やや多 前年：並み	1) 予測したふ化時期の1週間前から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期(ふ化数日後)に防除する。 2) 越冬成虫のカイガラ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回防除する。
	アブラムシ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 展葉初期～生育期に防除する。 2) 低温により遅い時期の発生が見込まれる。発見次第防除する。
	コスカシバ	幼虫加害 初期： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 5月上旬にスカシバコンを10a当たり50本、枝に吊す。 2) 幼虫の侵入部位を見つけ、捕殺する。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	アブラムシ類	初発期： 5月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺除草に努める。
	ミカンキイロアザミウマ	初発期： 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。